

昭和二十五年五月一日

海上保安庁(警備救難部)

北海道野付水道に於ける日本漁船の拿捕事件に於て
右に於て根室北東海面に於て本年三月十七日六隻、四月二十五日及公同十八日
各一隻計八隻の日本漁船が行方不明となりソ連側に拿捕されたもの
ようであるが、現在迄に判明したところは別紙の通りである。

裏面白紙

一、才三北洋丸他五隻にフツテ

(一) 事故発生日時 三月十七日午前八時五十分頃

(二) 事故発生地矣 納沙布崎灯台北才十二里附近(推定)

(三) 各漁船の状況

| 船名 | 出数 | 馬力 | 所有者氏名 | 令 | 住所 | 乗員数 | 記事 |
|------|------|----|--------|---------|-----|-----|---------|
| 北洋丸 | 一三三 | 三五 | 水浦清一 | 根室町字平内町 | 六 | 六 | 拿捕確認 |
| 北洋丸 | 一五七 | 三〇 | 島倉与三松 | 〃 | 鳴海町 | 七 | 〃 |
| 浦留丸 | 九三三 | 二五 | 浦島外次郎 | 野付郡別海村 | 五 | 五 | 未帰還拿捕推定 |
| 静海丸 | 一〇〇〇 | 二五 | 小崎友彦 | 〃 | 〃 | 七 | 〃 |
| 静丸 | 二九二 | 六 | 高瀬鶴次郎 | 根室町字汐見町 | 四 | 四 | 〃 |
| 美志満丸 | 七五五 | 三五 | 八木巻初太郎 | 野付郡別海村 | 七 | 七 | 〃 |
| 計六隻 | | | | | 三六 | | |

(四) 現地の状況

三月三日より根室湾内融氷により根室町蟹漁業者は一春に出漁事件発生。生々当時一五六隻の出漁船があった。

これら漁船は十七日午前三時頃根室港を相前後して出港北東方面へ六節にて約三時間航行した海上に於て右範圍に操業していた。

(五) 拿捕状況

午前七時三十分頃不意に水島島北方岬前岬の方面より二隻の船が現れ、一隻は国後島に他り一隻は納沙布方向に夫々出漁船の如く分れた後約三分位して機関銃を掃射し、その西面より日本漁船の拿捕に着手した為め、ソ連監視船であることを確認した。

逃走拿捕を免れた才三末右丸はソ連監視船の狙撃を受け、船長宇野藤一は軽傷を負ったが本船は逃走を続け遂に帰港したものである。

ソ連船の状況

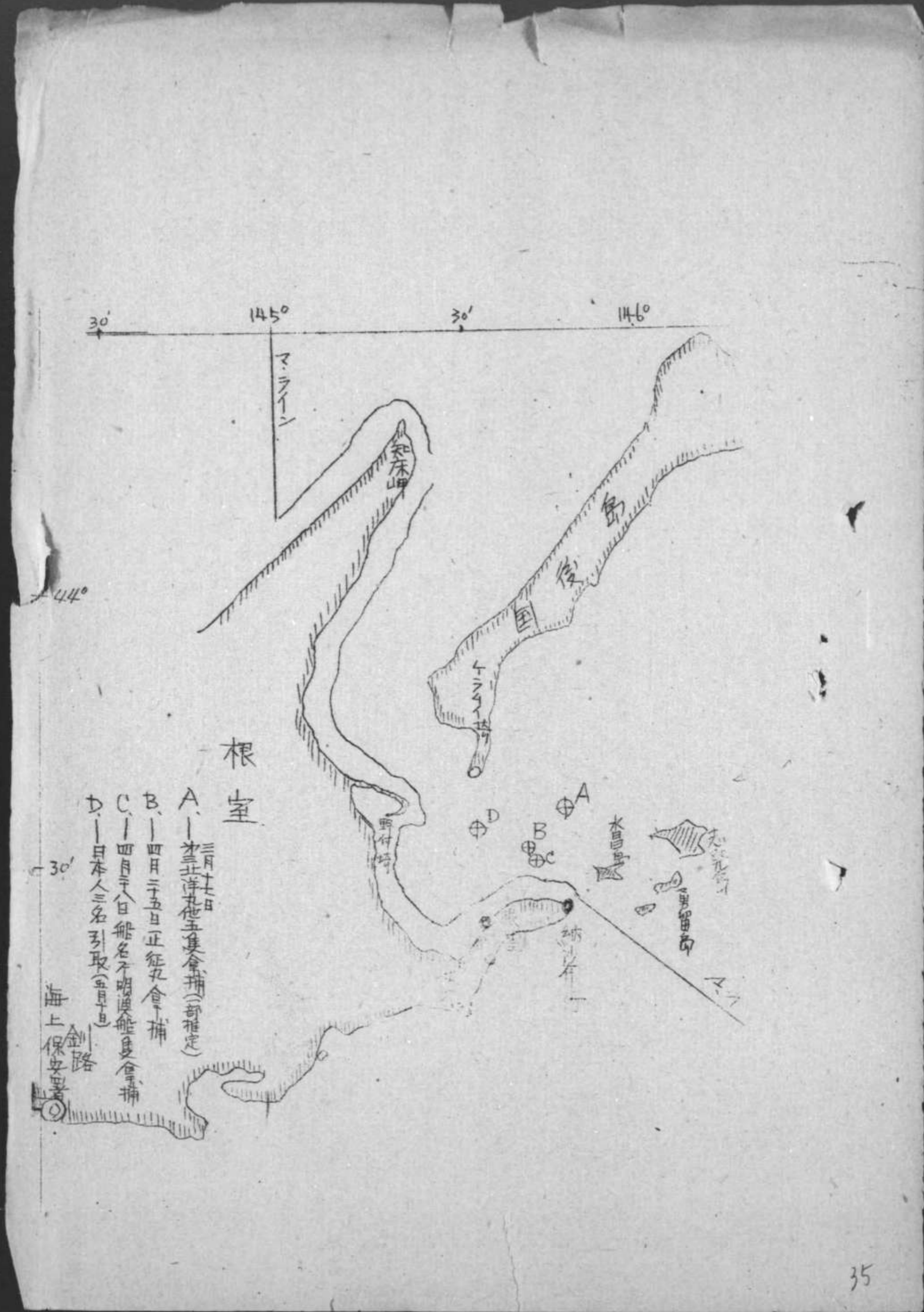
- 一 黒海運約三十噸級速力九哩位のもの一隻
- 二 一見日本型漁船と認められるもので船首に赤旗を掲げたもの一隻

正征丸に付いて

- (一) 事故発生日時 四月三十一日 午前四時四十五分頃
- (二) 事故発生地 根室北東約十一哩 (ライン外約四哩)
- (三) 船名、噸数 (馬力) 正征丸 (蟹刺網漁船) 三五噸 (五馬力)
- (四) 乗員 四名
- (五) 其他 四月三十一日に至るも帰港せず拿捕されたと思われ。詳細調査中。

船名不明漁船に付いて

- (一) 事故発生日時 四月二十八日 午前五時三十四分
- (二) 事故発生地 根室港北東約十哩
- (三) 以上は納沙布灯台より報告あつたが船名其他詳細は不明である。



裏面白紙

發達第一五〇号

昭和二十五年五月一日

地方自治庁次長

各省(才)次官 殿

都道府県知事會議の開催に付

五月八日から三日間開催の標記會議日程を別紙のとおり

決定したから、仰り知ありたい。

裏面白紙